

バイテック情報普及会セミナー

2008.12.2

食の安全に関するリスクコミュニケーション
～ 消費者の信頼を得るために、今、
食品業界に何が必要か～

東京大学名誉教授・食の信頼向上をめざす会会長
唐木英明

Hideaki.karaki@cao.go.jp

- 1) 「安全」と「安心」とは？
- 2) 「食品不信」の時代？
- 3) 誰が不信を作り出したのか？
- 4) 原因が分れば対策はできる！
- 5) 「神風」が時代を変える？

安全と安心

リスク → 大

経験

経験上の安全域

事故

科学

安全
(確実領域)

安全
(不確実領域)

やや危険

危険

規制

適合

健康被害
なし

違反

回収命令
廃棄命令

感情

安全・安心
(それでも不安)

不安・危険

安心対策
売上げ対策

安全対策
健康被害を防ぐ

モラル違反: 不信・不安
産地・原材料・期限の偽装

KARAKI 2008

消費者の信頼を得るために必要な コミュニケーション？

信頼を得る目的 = 安心 = 売り上げ対策

安心 = 安全 + 信頼

信頼を失う = 悪い評判 = 規制違反・モラル違反・報道

信頼を得る = 良い評判(悪い評判を打ち消す)
= 宣伝広告・リスクコミュニケーション・報道

悪い評判 >> 良い評判

1) 「安全」と「安心」とは？

安全は健康対策・安心は売り上げ対策

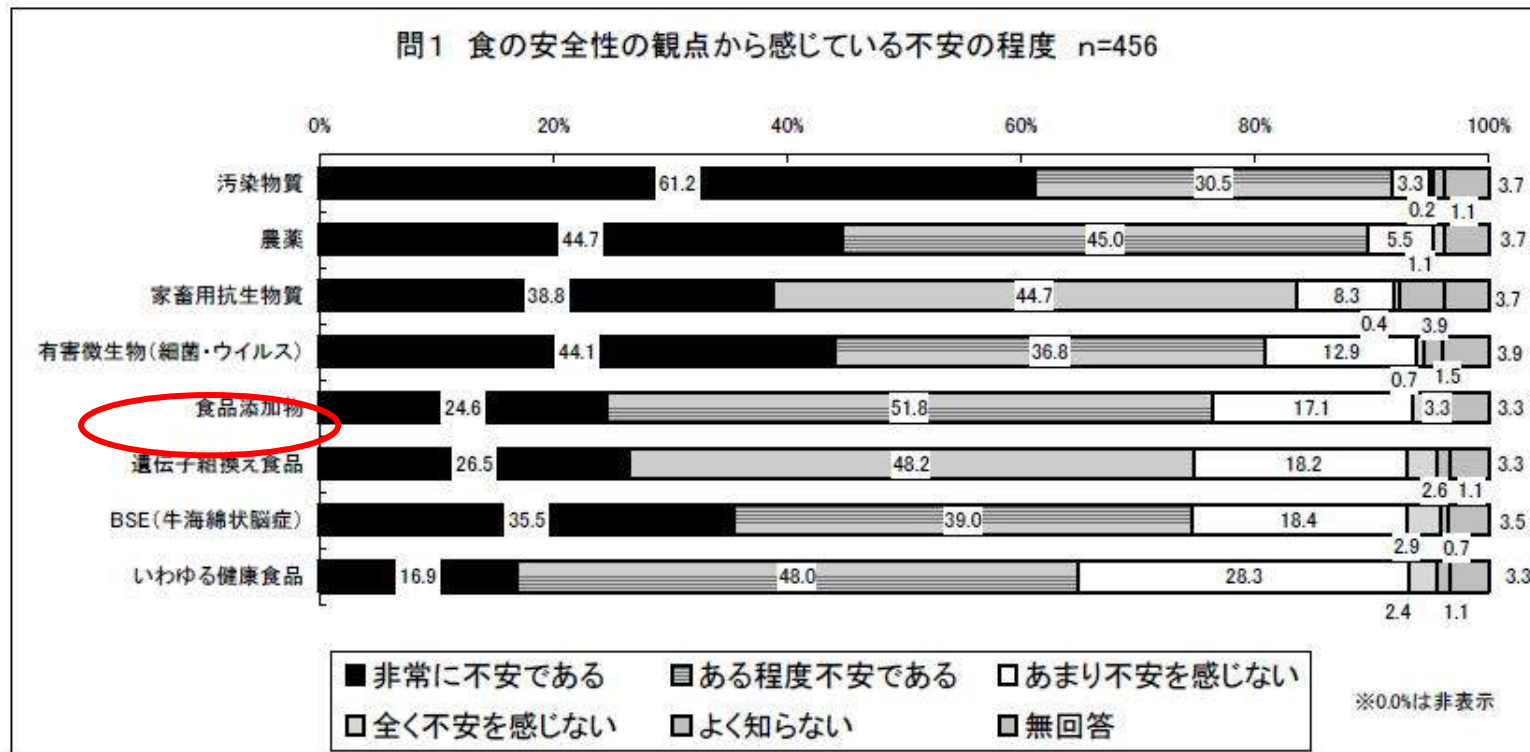
2) 食品「不信」の時代？

3) 誰が不信を作り出したのか？

4) 原因が分れば対策はできる！

5) 「神風」が時代を変える？

食品に対する不安 (食品安全委員会調査)



※ 「いわゆる健康食品」とは、厚生労働省の保健機能食品制度の下で一定の条件を満たすものとして販売を認めている「保健機能食品」以外の、健康茶、サプリメントなどです。

「汚染物質」とは、この場合、食品添加物等の期待される効果を得るために意図的に添加されるものとは別に、食品に意図せず含まれる有害な物質（カドミウム、メチル水銀、ダイオキシンなど）を対象にしています。

「聴かれて出てくる不安」

- ・消費行動を決めたのは
安価(メリット)と不安(デメリット)の計算の結果
- ・商品ではなくアンケート用紙を前にしたときには
不安という「感情」ではなく、
不安情報を知っているという「知識」で答える

消費者は必ずしも「強い不安」を感じてはいない

アンケートの信頼性を高めるには
精度が高い調査が必要

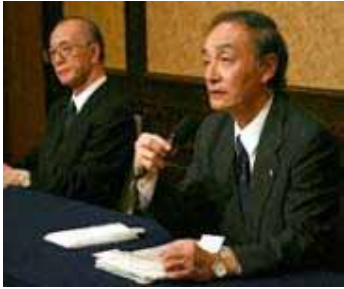
リスク管理の主役の交代

地産地消・家庭調理の時代

- ・いい品は見れば分る！
- ・食品の安全を守るのは主婦の仕事
- ・売り手と買い手の緊張感のある信頼関係

化学物質・加工食品・輸入食品・外食の時代

- ・商品のブラックボックス化
- ・何が入っているのかよく分らない！
- ・食品の安全を守るのは事業者の義務
- ・消費者はリスクを負わされる立場
- ・当然、ゼロリスクを要求する



偽装の2007年

- ・1月：不二家：消費期限偽装
- ・2月：ロイヤルホスト：食パンの消費期限を1日延長
- ・5月：日本ライス：産地偽装
- ・6月：ミートホープ：産地偽装
- ・8月：石屋製菓「白い恋人」：賞味期限偽装
- ・10月：赤福：賞味期限偽装
- ・10月：秋田県「比内鶏」：産地偽装
- ・10月：船場吉兆：賞味期限偽装、産地偽装
- ・11月：博多明太子：賞味期限偽装





Eureka!

「このあたりだろう」と、パッと見当で指すんですね。それがいい手で...。



ヒューリスティック heuristic

少ない努力で直感的に結論を求める方法

例) 暗証番号を忘れた!

解決法1) 順番にしらみつぶしに調べる(アルゴリズム:問題解決のための一連の規則的な手続きのこと)

解決法2) 誕生日などの手掛りを使って試行錯誤で調べる(ヒューリスティック)

アルゴリズムを用いれば**時間がかかる**が、**ほぼ必ず正解に到達する**。

ヒューリスティックは**短い時間**で答えが出るが、**まちがいも多い**。

人間の情報処理能力には限界があり、特に重要な問題でない限り認知的節約を行うので、多くの場合アルゴリズムよりヒューリスティックを用いる。

本能の判断:ヒューリスティック

ほとんどの場合本能で判断し、行動する

- ・危険情報重視
- ・利益情報重視
- ・安全情報無視
- ・信頼する人に従う
- ・前例に従う
- ・迷ったら本能に従う
- ・結論は「白か、黒か」

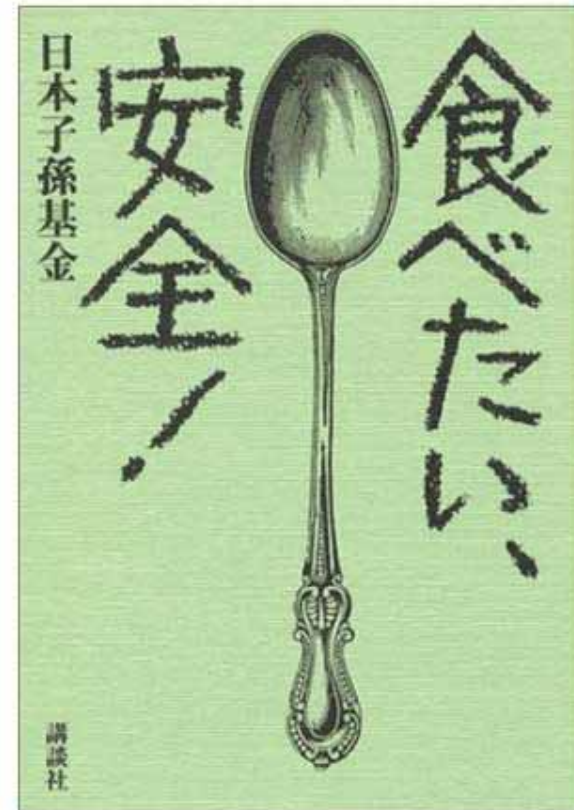
これは進化の中で得た生き残り作戦

- ・危険情報と利益情報を無視したら死ぬ
 - ・安全情報を無視しても実害はない
 - ・経験者以外が自分で判断したら死ぬ
 - ・理性的な判断(アルゴリズム)は時間がかかる
- ・本能的判断(ヒューリスティック)なら一瞬で対処できる

情報のバイアス:メディアにも私たちにも原因が..



23万部! (^-^)



5万部 (>_<)

科学・技術の発達 = 便利さ
= 自分の頭も身体も使わない

器具機械: 故障や誤作動を許容


- 乗り物 自分の足で歩かなくてもいい
- 作業機械 単純労働や重労働をしなくてもいい
- 電卓 計算ができなくてもいい
- ワープロ 漢字が書けなくてもいい

表示: 「単なる目安」を「厳格な基準」と誤解

- 期限表示 腐敗・変敗を知らなくてもいい
- 産地表示 国産なら安全性を確認しなくてもいい

表示やブランド = 安全・安心の代名詞 =
「正確さ」への期待 = 偽装は「最大の犯罪」と感じる

人は本能で行動する

本能	理性	
自己保存・利己的 本音	社会性・利他的 建前	 <p>新選書 佐藤卓巳 輿論と世論 日本の民意の系譜学</p> <p>いまの日本に必要なのは、 空気より意見、 セロンよりヨロンなのだ。 「世論」や「輿論」が何を意味するかわかる 現代社会の運命に 読者のメディアアワードが贈りこむ。 新選書</p>
理想論 絶対安全	現実論 実質安全	
感情・直感 ヒューリスティック	論理・科学 アルゴリズム	
空気で動く 世論(せろん) ニュース記事	意見をもつ 輿論(よろん) ジャーナリズム	

1) 「安全」と「安心」とは？

安全は健康対策・安心は売り上げ対策

2) 「食品不信」の時代？

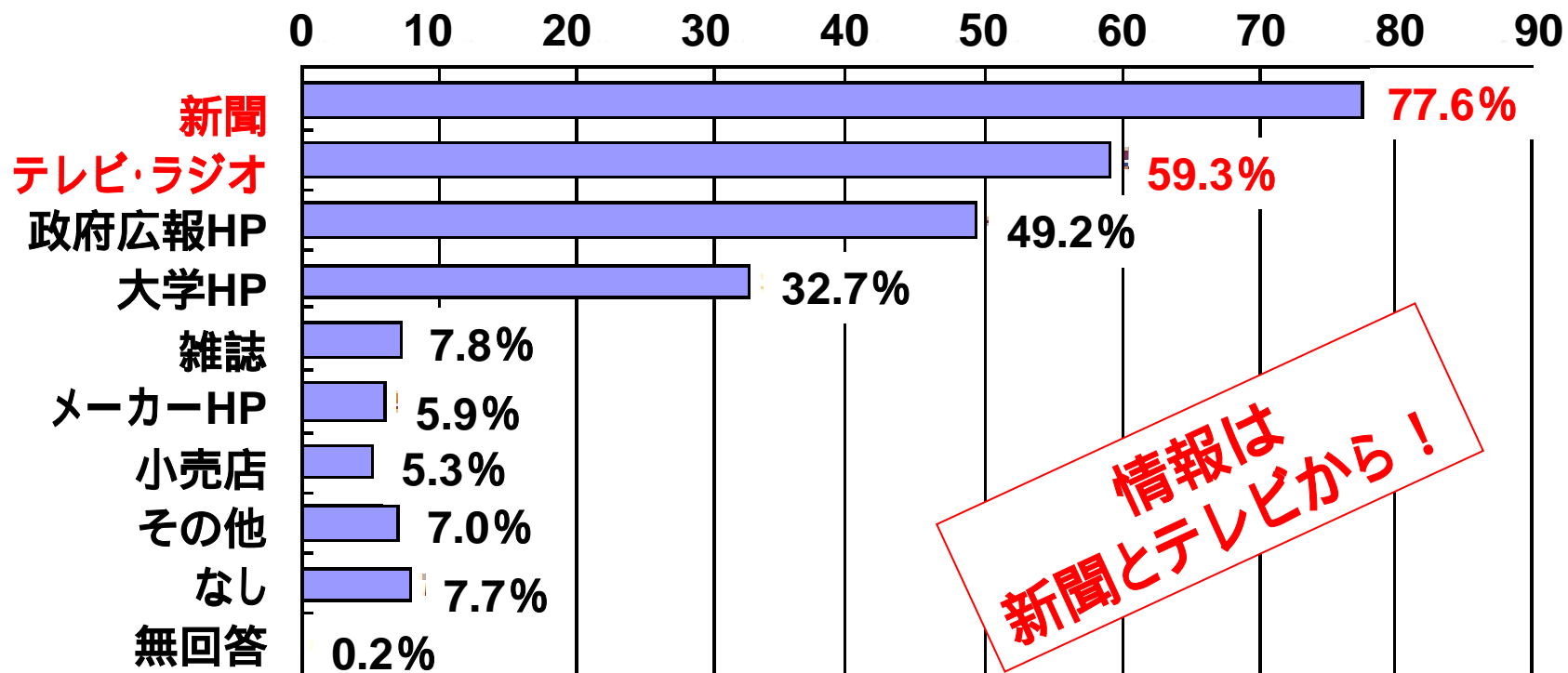
アンケートと消費行動のどちらを信じるのか？

3) 誰が不信を作り出したのか？

4) 原因が分れば対策はできる！

5) 「神風」が時代を変える？

食品安全委員会モニター調査 食品の緊急事態が発生したときに 最も信用できる情報源



どう答えるか 「直感で」60%、「考えて」32%

直感で答える

20代男性	72%
30代女性	80%
平均	60%
60代以上	40%

誰に誘導されているのか？

世論とは「社会大衆に共通な意見」(広辞苑)のこと。だが、厳密な定義や内容は様々だ。今回の調査では、マスメディアの「世論調査」がどうある世論を対象にした。個人の意見を積み上げたもの。メディアの世論調査に「直感がある」は60%。興味のある政治に関する調査をいくつでも挙げてもらうと、トップは「政策に関する調査」で40%(グラフ)。次いで「内閣支持率」が37%。生活にかかわりが深い政策への関心の高さが目立つ。世論調査の対象者になった。「直感で答える」方が60%で、「じっくり考えて答える」方の32%を上回った。「直感」は若い人ほど多く、20代男性で72%、30代女性で80%に達する。60代以上は「考えて」が約半ばを上回れる。見えてくる。竹下俊郎・明治大教授は「世論はそれとては異なる。権力者への圧力に面はある。なにか支離滅裂な感情的世論だ。」

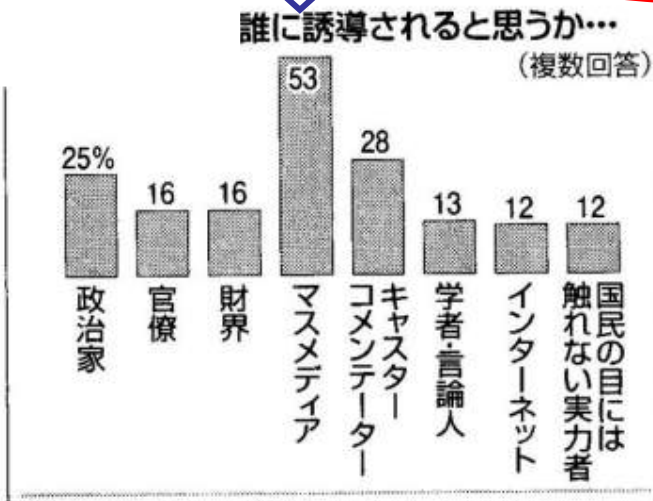
世論とは「社会大衆に共通な意見」(広辞苑)も「直感」が上回る。日々忙しく暮らすなかいきなり世論調査でふたを叩き開いていないことを問われても、「直感」で答えるを得ない。そんな本音がうかがえる。こうした傾向には「悠哉」との懸念の一方で、「ある意味、正直な答え。これこそが世論だ」と指摘する学者も。世論調査の結果、自分が少数派とわかっていても「気にしない」は37%と多く、「多数派に合わせよう」と答える人は4%しかない。大抵の人は「世論に流されない」と自負しているわけだ。興味深いのは「その他・答えない」が29%と少なくないことだ。年代が上がると増える傾向がある。実際には世論の大勢と違っても、自己主張できるかどうか—そんな思いも見え隠れする。

マスメディアによる世論調査が盛んだ。内閣支持率が時に政界を揺るがすなど、「世論」の影響力は無視できない。調査が頻き出す「世論」とはなにか。国民はどう受け止めているのか。朝日新聞社の政治世論世論調査で見えてきたものは—。

(吉田貴文、高本文哉)

本社世論調査に見る **「世論」って**

形成力 「メディア」50%、「政治家」20%



政治家、マスメディアと世論の関係は、国民にどう映っているのだろうか。政治家は「世論に迎合している」のか、「世論を作っている」のか。「迎合」は31%で、「作っている」の20%より多かった。政治家は世論に対して受け身の印象を持たれている。一方、メディアは「作っている」が50%で「迎合」の39%を上回る。政治家とは逆に、世論形成の力があると見られている。「作っている」「迎合」のどちらも、メディアが政治家より多く、世論に対する存在感はメディアの方があるとの受け止めだ。世論が誘導されるでは、世論が誘導される危険は感じているのか。感じている人は「大いに」(19%)、「ある程度」(49%)合わせて68%(グラフ)。「感じていない」という人に「誰に誘導されると思うか」と聞くと(複数回答)、「マスメディア(新聞・雑誌・テレビ)」が53%と最も多く、「テレビのキャスター、コメンテーター」が28%で続いている。メディアに懸念を示す人が目立つ。「政治家」は25%で「キャスター、コメンテーター」より低い。調査からは、「世論」が政治家より多く、世論をもつメディアの存在が浮き彫りになった。メディアの責任があらためて問われているといえる。

安全神話崩壊のパラドックス 治安の法社会学

河合幹雄(2004)岩波書店

新聞記事をきっちり読み返してみると、驚くほど冷静に書かれている。主要新聞は、犯人の凶悪化をことさらに述べることは皆無と
いってよい。

しかしそれでも、犯罪情勢は悪化しており、厳罰化の流れがあるか
のような印象を抱かされるのは、記事の「見出し」のせいである。加
害者を死刑にして欲しいといったような被害者の心情の吐露がそ
のまま見出しになってしまい、それが、「センセーショナルな犯罪報
道から厳罰へ」という印象をつくりあげている。

また、記事では殺人は減少しているなどの正しい記述があるもの
の、見出しでは検挙率の低下を強調するなどして、誤ったイメージ
を伝えている。(要約)

全頭検査の知識？

全頭検査を継続すべき 63%

見直してもよい 29%

2004年10月 埼玉県の調査

全頭検査を正しく理解している人 8%

全頭検査を実施していることを知っている 80.3%

と殺牛を検査することを知っている 30.3%

脳を検査することを知っている 28.7%

脳の病原体を調べることを知っている 19.7%

2004年11月 日本フードサービス協会の調査

誤解：月齢にかかわらず検査をすればBSEは必ず見つかる

誤解：若牛は発見の可能性が低い、高齡牛なら見つかる
検査は安全対策の決め手！



毒入り餃子事件



通常の違反事件

- 中国製冷凍ギョーザで食中毒、千葉と兵庫で3家族10人 (01/30)
- 都の検査では薬物検出せず...中国製ギョーザ (01/30)
- 中国製ギョーザ、回収6袋の包装外側から殺虫剤...兵庫 (02/03)
- 今度は殺虫剤「ジクロルボス」、日生連のギョーザから検出 (02/06)
- 新たに「手作り餃子」4袋から微量のメタミドホス検出(02/09)
- 未調理品1個からジクロルボス検出 福島県警(02/09)
- 昨春製ギョーザ袋からも薬物検出 徳島の生協回収分(02/10)
- メタミドホスを新たに16袋から検出 ギョーザ中毒事件(02/12)
- 業務用冷凍ギョーザから微量メタミドホス 残留農薬か(02/14)
- 徳島のジクロルボス検出、店舗内使用の防虫剤とほぼ特定 (02/14)
- さらに微量のメタミドホス 大阪の商社輸入の餃子フライ(02/16)
- 「ニラ海老まん」からもメタミドホス 生協が発表(02/20)
- 餃子袋からも新たな農薬 みやぎ生協回収、パラチオンなど(02/20)
- 中野とんかつ、殺虫剤「ホレート」検出 (02/21)
- 餃子」2袋からメタミドホス 日本生協連が回収(02/21)
- ジクロルボス、中国製冷凍天ぷらから ユーコープ(02/24)

中国野菜輸入44%減
2008.6.18日経

- 違反件数は検査件数に比例する -

報道が引き起こす不安

メディアは信頼され、世論を作る立場

- ・視聴率のために根拠が薄い危険情報を流す
 - ・その結果起こる社会的混乱の責任を取らない
- 食の不安情報、中越沖地震の風評被害、、、

企業はメディアの報道に過剰反応をする

自主回収、お詫び会見、お詫び広告、、、

これを見て消費者は企業不信を強める

メディアには結果を予測する想像力が必要

1) 「安全」と「安心」とは？

安全は健康対策・安心は売り上げ対策

2) 「食品不信」の時代？

アンケートと消費行動のどちらを信じるのか？

3) 誰が不信を作り出したのか？

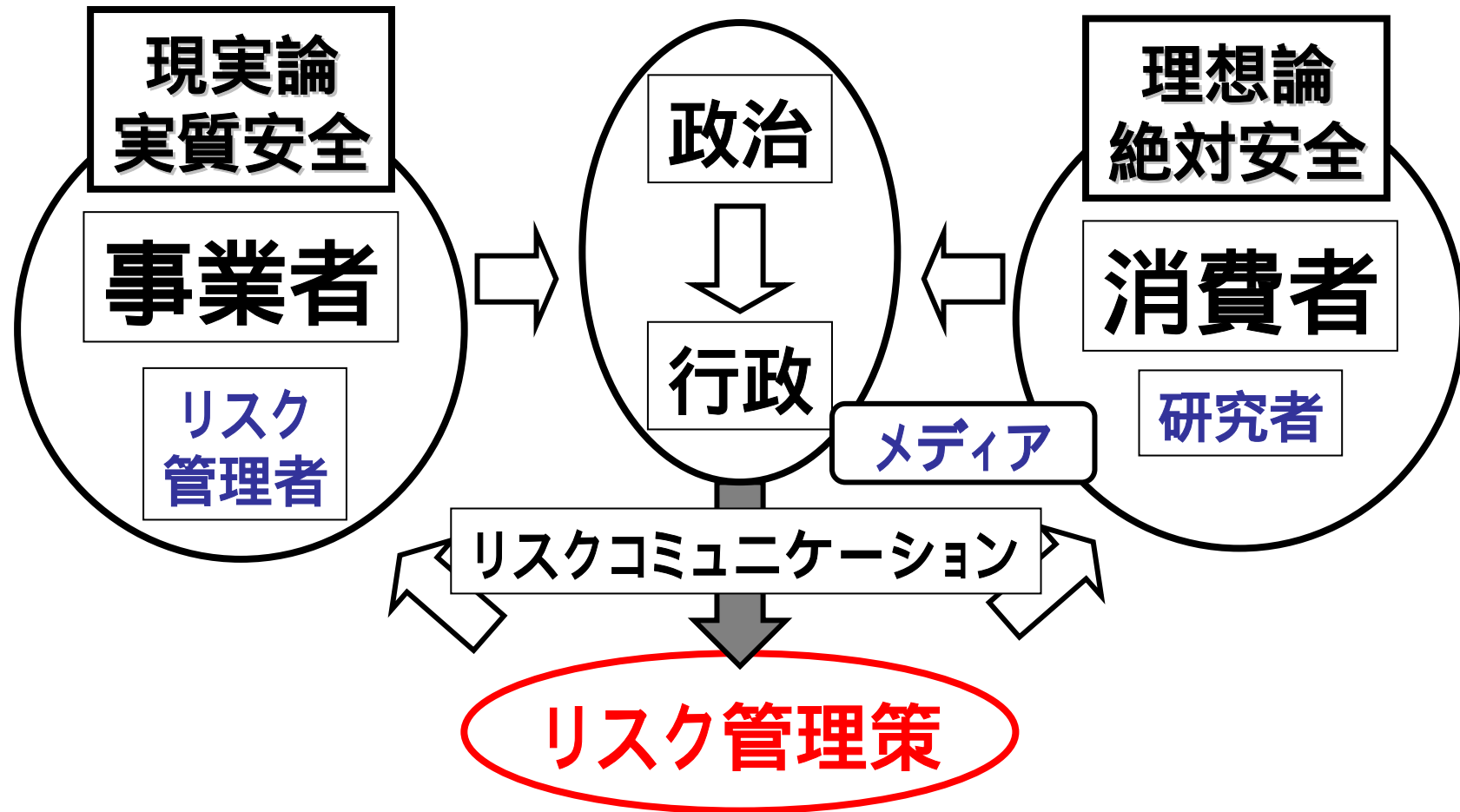
「世論」と「輿論」を取り違えた不幸

4) 原因が分れば対策はできる！

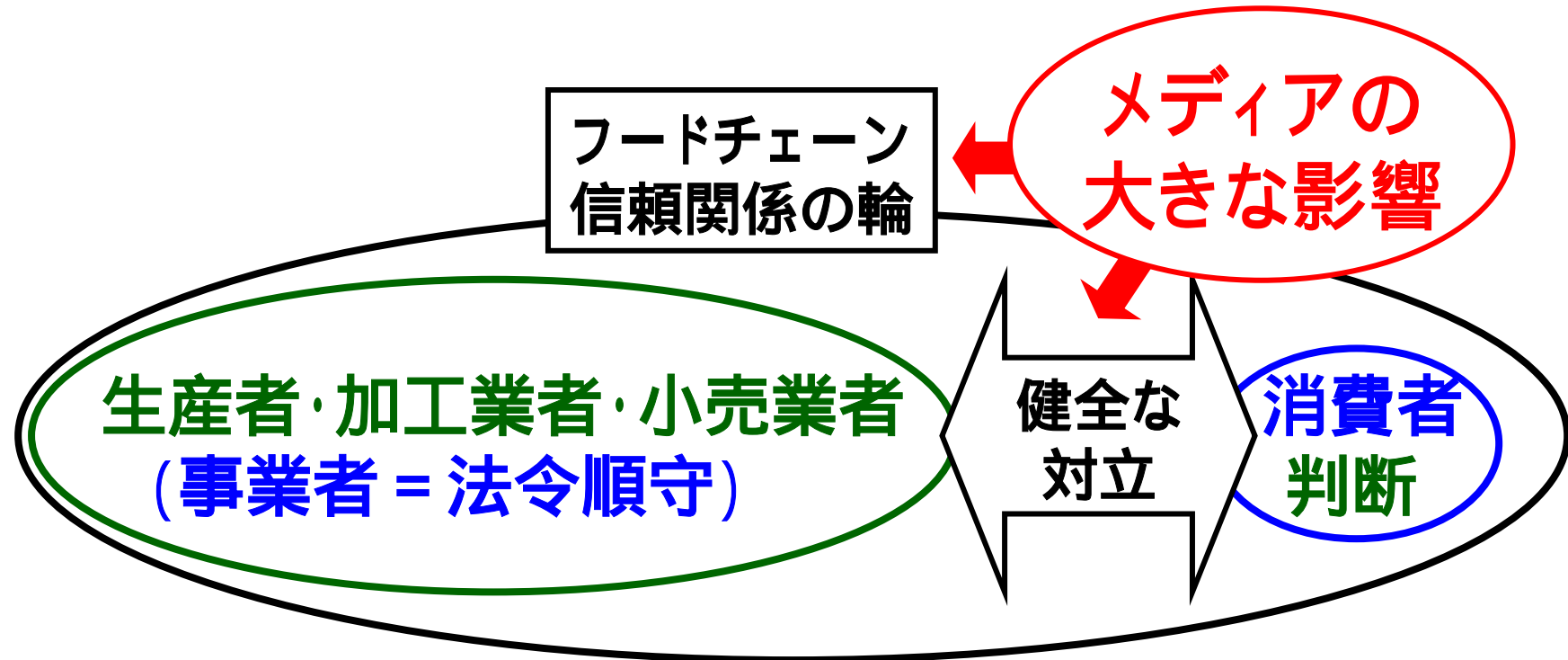
5) 「神風」が時代を変える？

食の安全を守るしくみ

理想論と現実論の衝突



食の安全を守る仕組み

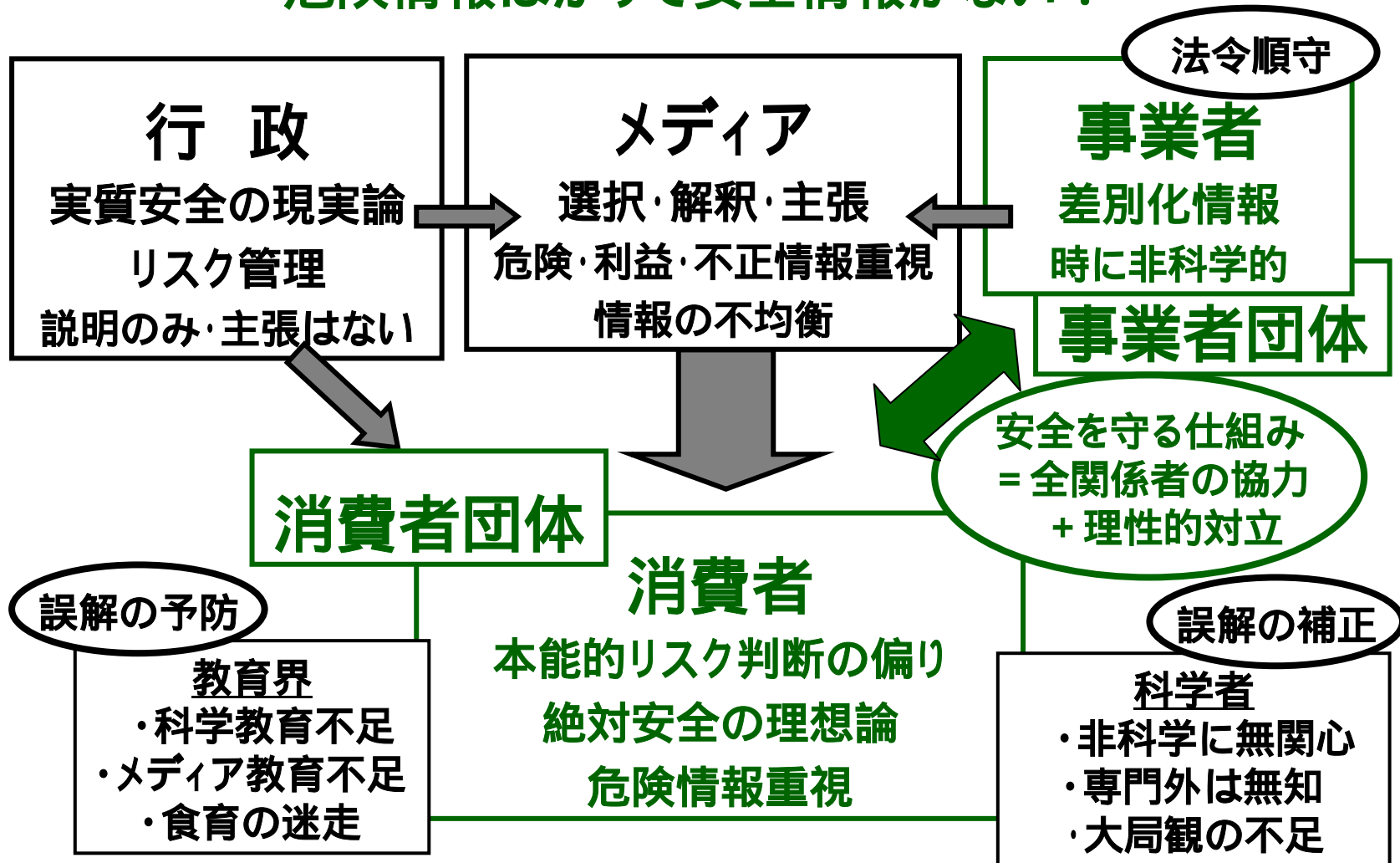


フードチェーン

- 1) 関係者全員の目的共有と相互理解と信頼関係
- 2) 食品供給者と消費者の健全な対立関係
- 3) メディア・リテラシー・真のリスク(現実)に注意

リスク判断のための情報

危険情報ばかりで安全情報がない！



1) 「安全」と「安心」とは？

安全は健康対策・安心は売り上げ対策

2) 「食品不信」の時代？

アンケートと消費行動のどちらを信じるのか？

3) 誰が不信を作り出したのか？

「世論」と「輿論」を取り違えた不幸

4) 原因が分れば対策はできる！

世論を誘導するメディアに働きかける

5) 「神風」が時代を変える？

受入れを決める2つの要素

喫煙

自動車

死者年に7000人

・反対ほとんどなし

安全性に問題あり

米国産牛肉

死者ゼロ

原発

市民の死者ゼロ

・反対運動があるが、受入れも進んでいる

食品
照射

添加物・残留農薬・組み換え 健康被害無し

・反対運動が盛ん、受入れは進まない

安全性に問題なし

違いの原因は

1) メリットの実感

2) 政府の関与

} リスクコミュニケーション不足

■主な部門のCO₂排出量(ト)

	07年度 排出量	うち電力消費 に伴う排出量	06年度比	基準年比
産業(工場 など)	4億7600万	1億5900万	3.6%増	1.3%減
運輸(車、船 など)	2億4900万	800万	1.6%減	14.6%増
業務(オフ イスビル、 店舗など)	2億3300万	1億4300万	1.2%増	41.7%増
家庭	1億8000万	1億1700万	8.4%増	41.1%増

環境省は12日、07年度の温室効果ガス排出量(速報値)が過去最悪の量にのぼったことを正式に発表した。増加の主な原因は原発稼働率の低下で、京都議定書が定めた90年度比6%削減という目標の達成に向けて、温暖化対策を原発に頼っている危うさが浮き彫りになった。

メタンや代替フロンなどを含む温室効果ガス全体の07年度の排出量は、二酸化炭素(CO₂)に換算して13億7100万ト。06年度より2・3%増えた。このうち化石燃料の使用に伴うCO₂の排出量は12億1800万トで同2・7%増だった。

部門別で見ると、工場などの産業部門では生産量が増えたため、CO₂排出量も3・6%増加。特に鉄鋼業で4・8%増えたことが影響した。オフィスや店舗などの業務部門は1・2%増、家庭部門

温室ガス削減原発頼み

排出量過去最悪 6%達成危うさも

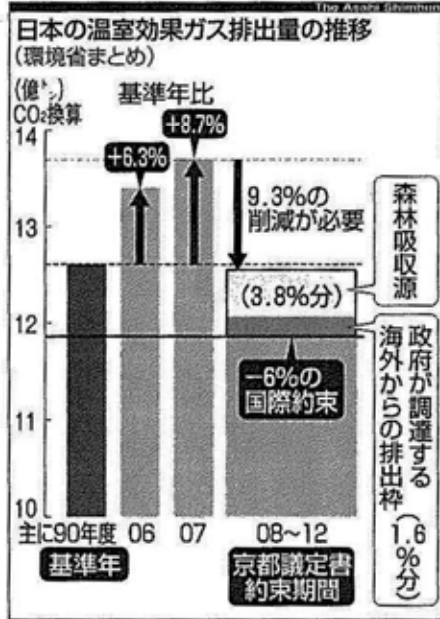
は8・4%増だった。家庭部門は暖冬だった06年度の反動で暖房利用が増えたが、両部門とも排出量の約6割が電力によるもので、原発の運転停止を火力発電所で代替した影響が及んだ。運輸部門は、原油高で自動車の走行量が減り、1・6%減だった。

京都議定書の基準年(原則90年度)の排出量12億6100万トを90年度比6%削減する目標は、06年度に達成された。07年度は13億7100万トと、目標から1億1000万ト超過した。このうち化石燃料の使用に伴うCO₂の排出量は12億1800万トで同2・7%増だった。

部門別で見ると、工場などの産業部門では生産量が増えたため、CO₂排出量も3・6%増加。特に鉄鋼業で4・8%増えたことが影響した。オフィスや店舗などの業務部門は1・2%増、家庭部門

! 神風!
を札限話後人

状況の変化
報道の変化
世論の変化





第4期 食糧ウオーズ ①

母く白頭視されてきた遺伝子組み換え(GM)作物に、追い風が吹き始めている。GM技術の知的所有権を独占し、世界の主要作物の種子支配を握っていると批判されてきたモンサント社(米國)は6月、世界的な食糧高騰や気候変動に立ち向かう「貢献策」を公表した。トウモロコシ、大豆、綿といふ主要農産物3品目について、2030年までに00年と比べて収量を倍増させる種子を開発し、その栽培に必要な土地、水、肥料の量を3分の1削減する。

遺伝子組み換えへ傾斜

食糧高騰・温暖化で風 賛否の均衡破る商機

保護しながら、増える食糧需要を満たさなければならぬ。私たちはその役割を果たしていく」と宣言した。ローマでの国連食糧サミットに合わせたタイミングだった。

サミットも声明

先進国首脳も言及する。ブラウン英首相は4月、福田首相に送った書簡の中で、「食糧問題の技術的解決を追求する必要がある」としてGM技術を北極道制覇サミットでの議論に乗せるよう求めた。ブッシュ米大統領も途上国への追加食糧支援策を発表するスピーチで「(GM作物の)普及を阻む障壁を取り除くよう各国に求める」と両を合わせた。

そして、日本。岸田科学技術担当相を筆頭とする閣僚と有識者で3月に発足した「バイオテクノロジー戦略推進官民会議」。遺

伝子組み換えについて、渡海文科相が「あまり議論されてこなかったのでぜひ探り上げてほしい」と切り出した。出席者からは「中国、インドなどではバイオ技術の進歩がすさまじいが、我が国ではGM作物の野外での研究すらままならず、非常に遅れてしまっている」との意見が続いた。

6月末に公表した中間とりまとめでは、国民の理解を広げ、中高生の教育に力を入れることを強調した。

サミットでは食糧安全保障に関する特別声明に、GM技術を含む「バイオテクノロジーの促進」を盛り込んだ。

安全性に懸念も

異なる種の遺伝子を利用し、まったく新しい種を生み出す遺伝子組み換え、夢の技術として期待を集める一方、自然界になかった存在を生み出す「フランケンシュタイン

技術」として人の健康や生態系への悪影響が心配され、賛否の対立が続いてきた。その均衡を破るかのようになり、気候変動問題などを足がかりにGM推進派の攻勢が始まった。

英国の農業コンサルタントPGEコンミクス社は、GM作物の栽培で、00年には乗用車650万台分に相当する二酸化炭素(CO₂)約15000万トンが世界全体で減ったとの試算を公表した。雑草を除くのに畑を耕り起こす必要がなく、農薬の散布回数も減るため、土中からのCO₂排出や農機具のエネルギー消費が抑えられるという。温暖化被害に反対し、干ばつや高温に強い作物の開発も各地で進められている。

フィリピン国際イネ研究所(IRRI)のロバート・サイグラー所長は「今こそ遺伝子革命が必要だ」と力説する。「世界を救える技術があるのに規制して使わないのは犯罪に近い」とまで言い放った。(庄司直樹)

2面に続く

! 神 風 !

状況の変化
報道の変化
世論の変化

2008.7.20 朝日新聞

食の信頼向上をめざす会

平成20年9月29日設立

食の信頼向上をめざす会

[設立趣旨](#)

[設立総会のご案内](#)

[入会案内](#)

[会 則](#)

活動報告

[プレスリリース\(準備中\)](#)

[イベント案内\(準備中\)](#)

[コラム](#)

食に関係する生産者、製造加工業者、流通業者、小売業者、消費者のすべてが「食の安全を守る」という目的を共有して、お互いの信頼関係を築き、食の安全を守る事を目的に活動しています。

トピックス

H20.9.29 [『食の信頼向上をめざす会』の設立総会を開催しました](#)

東京都新宿区の日本青年館国際ホールで「食の信頼向上をめざす会」の設立総会が開催されました。当日はあいにくの雨模様でしたが、消費者をはじめ食に関わる様々な分野の方々に大勢参加していただき、会場は満席の状態となりました。

H20.9.24 [『食の信頼向上をめざす会』会員募集中!](#)

当会の活動に賛同していただける法人や個人の会員を募集しています。

更新情報

H20.10.15 [コラムを3件追加しました。](#)

H20.09.24 [食の信頼向上をめざす会ホームページが一部完成しました。](#)

食の信頼向上をめざす会

Copyright©2008 All Rights Reserved.